

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表： 2024年 2月 5日

事業所名 ほっとスマイル

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		施設の改修が完了し十分なスペースを取ることができている。	
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		施設の改修により、バリアフリー化した。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		ヒヤリハット報告書等で業務改善を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		1年に1度、保護者へアンケートを取っている。 都度、保護者の意見・ニーズをを聞いている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		職種毎に都度、研修機会を持つようにしている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>		固定化しないよう、季節に合った創作を取り入れている。	同じ活動でも、方法を変えたり、新しいツールを使用したりすることを検討していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	<input type="radio"/>		夏祭りやクリスマス会など休期中にできる活動を行っている。平日ではできない集団活動を取り入れている。	利用児ごとの細かな課題にも着目して、支援を計画していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		行動予定表を前日に作成し、役割分担を明確にしている。正職員がその日の支援内容について打ち合わせし、パート職員に伝達している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>		重要な内容についてはその日のうちに共有している。	送迎の都合上、その日のうちに細かい打ち合わせはできないため、掲示板を使用して周知連絡している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	<input type="radio"/>			地域交流の機会の提供について検討する。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	現状、医ケアが必要な利用児がいない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	今年度は該当する児童がいなかった。	今後、小学1年生の利用がある場合には園や児童発達支援事業書との連携を行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	多治見市ネットワーク会議があり、圏域の基幹相談事業所や地域の相談支援事業所が中心となり市役所や地域の事業所で2カ月に1回程度研修を行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	法人としての代表者が参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		保護者から相談があれば、対応していく。職員が勉強する機会を作る。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		ニーズ調査を行いつつ、必要があれば開催する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情解決フローを遵守している。苦情要望箱の設置をしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	毎月、ほっとスマイル通信を発行して活動内容を周知している。R6年1月からインスタを開設した。	
	35	個人情報に十分注意している	○	写真等については個人情報の観点から、保護者から掲載同意一覧で公開範囲を確認している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	法人としての行事を行い、地域住民を招待している。	同じ法人内の保育所と連携し、事業所としての行事を行えるように検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	契約の際に説明をしている。	毎月の通信で、防災活動等の周知を行っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	半年に1回、避難訓練を行っている。	色々なパターンを想定し、訓練回数を増やしていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	毎月、虐待防止・身体拘束適正化委員会を開催している。毎日、全職員セルフチェックを行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	具体的な行為については、別紙で説明し保護者にサインをもらっている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	基本はすべて除去で対応。代理のもので対応する場合は事前に保護者に相談している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ノートに記載しており、どの職員も閲覧できるようにしている。	